

# 大学講堂を寄附

九州大学は椎木正和様（しいき教育文化振興基金会長）より、九大百年を象徴し、学術芸術文化の拠点となる大学講堂の建設費を寄附いただくことになりました。

## 寄附の経緯

本学は平成23年（2011年）に創立百周年を迎えるに当たり、総長を委員長とする百周年記念事業委員会を設置し、平成18年から募金活動等を行ってきました。また、本学の百周年記念事業を学外から支援するために、地元経済界をはじめ関係団体のご賛同を得て百周年記念事業推進会が設立され、多大なご支援とご協力を賜りました。

このたびの大学講堂の寄附は、百周年記念事業を展開するなかで、推進会の方から、教育文化振興事業の支援に取り組まれている「しいき教育文化振興基金」会長の椎木正和様をご紹介いただいたことによるものでした。明日の社会を担う人材の育成と地域の発展に貢献する教育研究文化施設等の整備・充実についてご支援をお願いしたところ、格別のご高配により大学講堂の建設費をご寄附いただくことになりました。

## 寄附について

講堂は、知の探求・創造と継承・蓄積を推進する基幹総合大学として、地域社会と共に栄え、世界へ飛翔し続けていくために相応しい建物とし、入学式・卒業式等が挙行できる大学講堂としての機能に加えて、地域連携・産学連携・国際交流を担う拠点として、多目的な利用にも対応できる施設とします。また、日常の管理・運営にも配慮したものとします。

大学講堂の名称は九州大学顕彰規程に則り、寄附者の名前を冠して、「椎木講堂」とします。また、講堂の設計・工事監理は、寄附者の指名により、建築家で東京大学名誉教授の内藤廣氏が担当されます。これらの確認のため、椎木正和様と有川節夫総長との間で合意書が取り交わされました。

## 大学講堂計画の基本方針

建設にあたり、寄附者の椎木様と本学の間で意向を確認し、以下のような「計画の基本方針」を定めました。

### 計画の基本方針

九大百年を象徴し、学生や教職員への誇りとなり、市民を惹きつけ、新しい学術芸術文化の拠点となる講堂をつくる。そのため、象徴性、先進性、持続性を有する施設とする。

① 象徴性  
百年の歴史と伝統を基礎とし、新たな百年に向けて、最高水準の学術研究を推進する九州大学にふさわしい象徴性を有する施設とする。

② 先進性  
「九大百年」、九州大学の「これまでの百年」と「これからの百年」を象徴する外観の建物とする。  
・新たな百年に向けて躍動する九州大学の核となる施設とする。

### ② 先進性

大学講堂としての機能に加え、地域社会・国際社会・学界等の要請にも対応できる先進性を有する施設とする。

・大学の主要行事（入学式、卒業式等）に対応する人員を収容できる施設とする。  
・学内外の多目的な利用に対応しやすい施設とする。

### ③ 持続性

日常の管理・運営を十分に反映し、多目的な利用に対応しやすく、時代を超えて使われる持続性を有する施設とする。

・大学の中枢機能（管理運営等）を有し、日常的に使用できる施設とする。  
・低炭素社会、循環型社会に貢献する施設とする。

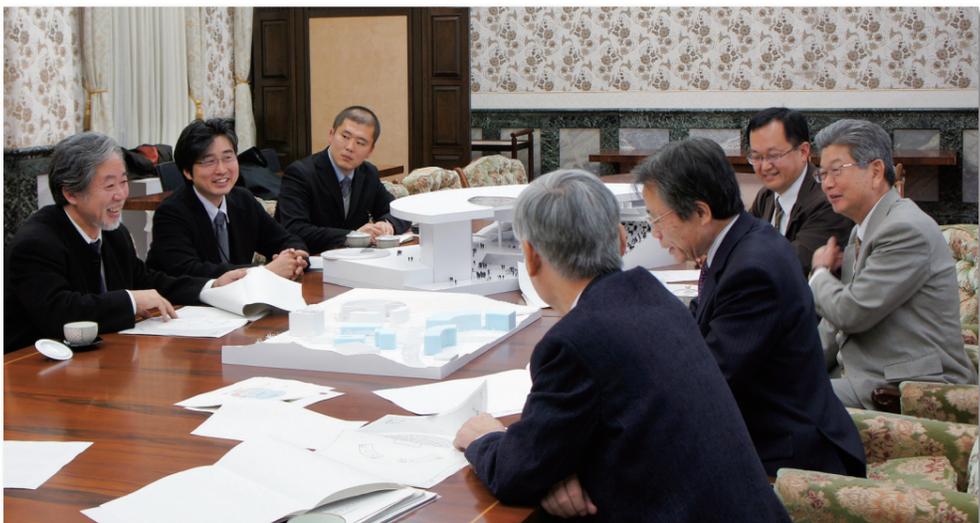
## 大学講堂の概要

- ① 建物名称 椎木講堂
- ② 寄附者 椎木正和氏  
（しいき教育文化振興基金会長）
- ③ 建設場所 福岡市西区  
伊都キャンパスセンターゾーン
- ④ 床面積 9,000～10,000㎡
- ⑤ 設計・工事監理 株式会社内藤廣建築設計事務所
- ⑥ 工事着工 平成24年11月（予定）
- ⑦ 完成 平成26年2月（予定）

## 設計者 内藤廣氏

建築家、東京大学名誉教授。1974年早稲田大学理工学部建築学科卒業。1976年同大学大学院修士課程修了。1981年内藤廣建築設計事務所設立。2001年東京大学大学院工学系研究科助教授、2002年教授。2011年からは副学長としてキャンパス計画を担当。2011年3月退官。

代表的な建築作品に「安曇野ちひろ美術館」「牧野富太郎記念館」「島根県芸術文化センター」がある。



設計者内藤廣氏から大学講堂について説明を受ける有川総長ら大学関係者

大学講堂の建設位置図  
(伊都キャンパス)

